



<https://www.topcon.co.jp>

株式会社 **トプコン**

〒174-8580 東京都板橋区蓮沼町75番1号

©株式会社トプコン Printed in Japan 2022



株式会社トプコン 会社案内
Corporate Profile 2021

Topcon for Human Life

TOPCON WAY



経営理念

トプコンは「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、
豊かな社会づくりに貢献します。

経営方針

トプコンは先端技術にこだわり、モノづくりを通じ、
新たな価値を提供し続けます。

トプコンは多様性を尊重し、
グローバルカンパニーとして行動します。

トプコンはコンプライアンスを最優先し、全ての
ステークホルダーから信頼される存在であり続けます。

Topcon for Human Life

Contents

ごあいさつ	3	研究開発	19
ビジネスドメイン	5	グローバルネットワーク	21
「医」ヘルスケア	7	トプコングループの事業変遷	23
「食」アグリカルチャー	11	会社概要	25
「住」インフラストラクチャー	15		

詳しい情報は
こちら



Topcon for Human Life

医・食・住の成長市場において、
社会的課題を解決し事業を拡大します。

トプコンは、『「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。』を経営理念に掲げ、成長戦略を加速していきます。

「医 (Healthcare)」では、世界的な高齢化に伴う眼疾患の増加に対処すべく眼健診(スクリーニング)の仕組みづくりにより、疾患の早期発見と医療効率の向上を目指します。

「食 (Agriculture)」では、世界的な人口増加に伴う食糧不足への懸念に対処すべく「農業の工場化」により、高精度化と省力化を実現し生産性及び品質の向上を目指します。

「住 (Infrastructure)」では、世界的なインフラ需要に伴う技能者不足に対処すべく「建設工事の工場化」により、高精度化と人手不足の解消を実現し生産性及び品質の向上を目指します。

株式会社トプコン 代表取締役社長

平野 聡



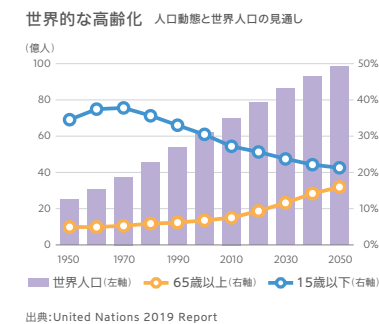
詳しくは動画をご覧ください



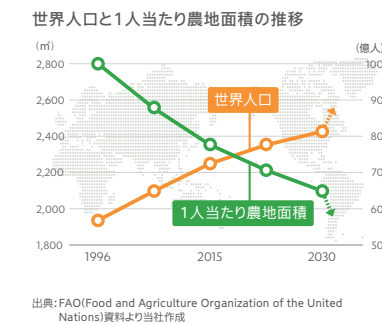
トプコンが取り組む社会的課題



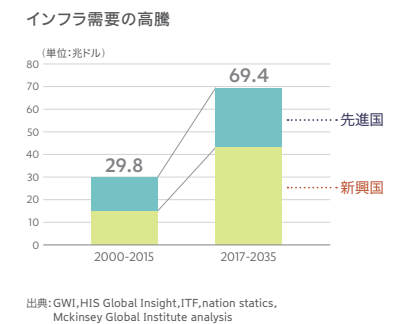
世界的な高齢化に伴う眼疾患の増加



世界的な人口の増加に伴う食糧不足への懸念



世界的なインフラ需要に伴う技能者不足



社会的課題に対するトプコンのDXソリューション



眼健診(スクリーニング)の仕組みづくり (IoT医療ネットワーク)

健診 (スクリーニング)	疾患早期発見
予後管理	医療効率向上



農業の工場化 (IT農業)

高精度化・省力化
生産性・品質向上



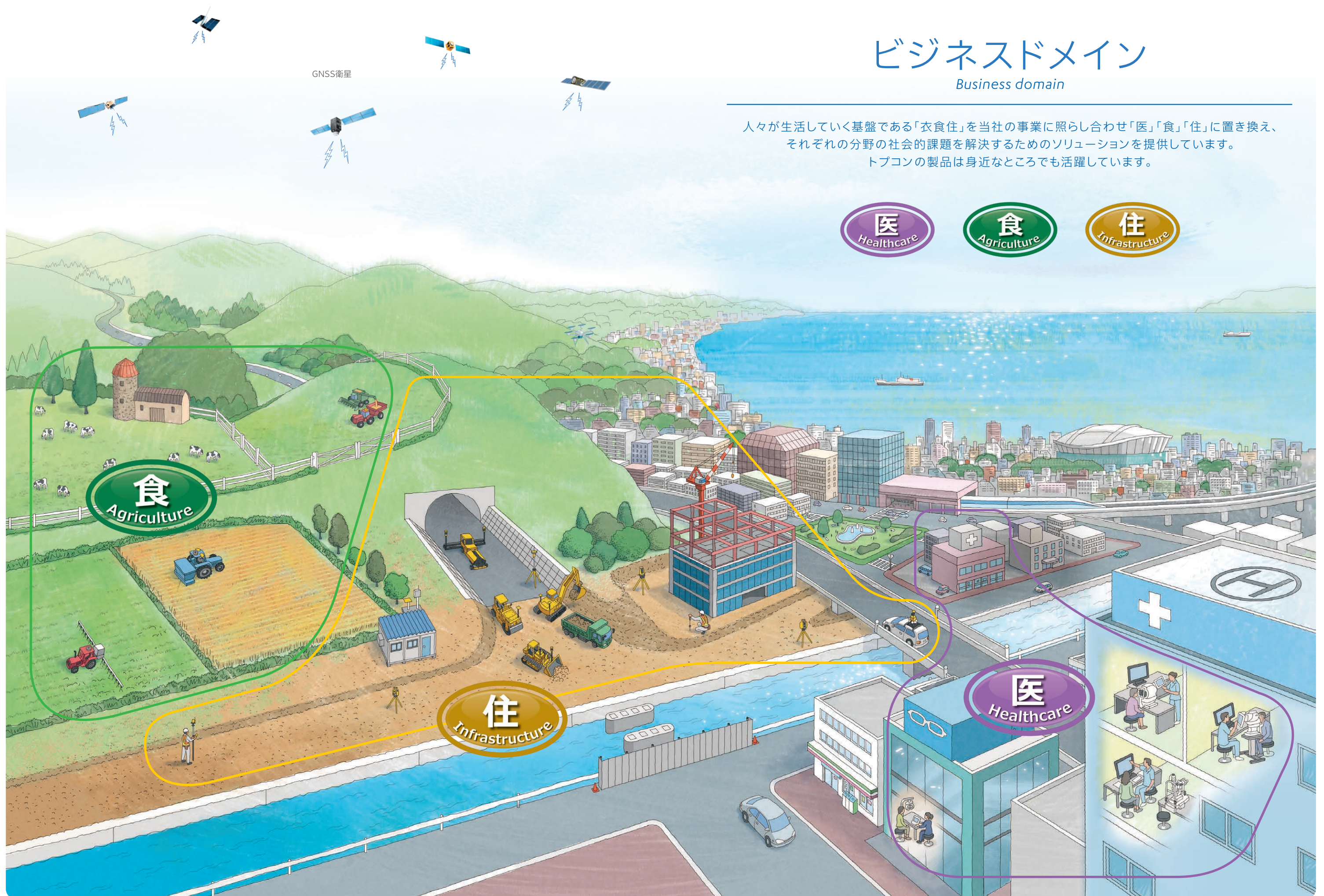
建設工事の工場化 (ICT自動化施工)

高精度化・人手不足解消
生産性・品質向上

ビジネスドメイン

Business domain

人々が生活していく基盤である「衣食住」を当社の事業に照らし合わせ「医」「食」「住」に置き換え、それぞれの分野の社会的課題を解決するためのソリューションを提供しています。
トプコンの製品は身近なところでも活躍しています。





「診る技術」で眼健診（スクリーニング）を創出。

社会的課題 Societal Challenge

眼疾患は増え、 眼科医は不足

人々が安全で快適な生活を送るためには、眼の健康がとても大切です。しかし、視力矯正が必要な人、白内障、緑内障や糖尿病網膜症などの視る機能に障害をもつ人は、2019年には世界で22億人いると報告されています（WHO「ビジョンに関する世界レポート」）。

今後は世界人口の増加と高齢化に伴い、患者数はさらに増えたと予想されています。これに対し、世界の眼科医は20万人程度。先進国では、生活習慣病の合併症としての眼疾患も増加しており、眼科医不足に加え医療連携体制の未整備が課題です。新興国においては人口に対する眼科医の人数が圧倒的に少ない上に、医療環境が十分に整っていない地域もあり、眼科医療に関するあらゆることが不足しています。

対策 Countermeasure

身近な場所で 眼の健康診断（スクリーニング）の 仕組みづくり

眼科医が不足している現状では、「眼科医療の効率化」が必要です。具体的には、世界の約200万人のかかりつけ医（内科医）、また約100万店舗ある眼鏡店やドラッグストアのような、身近な場所で眼の健康診断（スクリーニング）を提供すること。これにより、眼科医療の効率化、眼疾患の早期発見、早期治療やアフターケアが実現できると考えられ、海外ではさまざまな取り組みが始まっています。

そのポイントになるのは、簡単に高度な医療情報が取得できる装置とITソリューションです。トプコンは、独自の光学技術を駆使し、フルオートで眼底や網膜の断層を撮影できる3次元眼底像撮影装置やデータマネジメントシステム、遠隔地を結ぶ検査、診断サービスを可能とするクラウドベースのIoTプラットフォームなどを提供しています。

このフルオート3次元眼底像撮影装置により、熟練スキルの

早期発見・早期治療で健康な生活を！

ないスタッフでも診断に有用な診療データを簡単に取得できるようになります。そして、取得した画像やデータをクラウド経由で読影センターに送り、専門医が診断を行うといった遠隔診療サービスが実現できます。トプコンのフルオート3次元眼底像撮影装置とITソリューションにより、眼鏡チェーン店やドラッグストアのような身近な場所*で眼の健康がチェックできるようになり、眼疾患の早期発見やアフターケアの機会が創出されています。

※日本においては医師不在の眼鏡店及びドラッグストア等は対象外

未来 Future

目は身体之窗 Healthcare Through the Eye

トプコンはさまざまなパートナーとの連携を強化し、世界の「眼科診療」の効率化を目指しています。

2018年にはアメリカのパートナー会社が開発したAIによる糖尿病網膜症の自動診断システムが、世界で初めてFDA（米国 食品医薬品局）の認証を受けました。この認証は、

高い技術力に裏打ちされたトプコンのフルオート眼底像撮影装置を使うことが条件になっています。このシステムにより糖尿病の患者は、かかりつけ医のもとで糖尿病網膜症の有無を自動診断してもらえるようになりました。

今後もトプコンは、データマネジメントシステム、クラウドプラットフォーム、画像解析技術の強化により、全ての眼科医療従事者を支援し、医療効率の改善に貢献していきます。また検査機器、診断機器を更に使いやすくするだけでなく、データの利活用を促進し広く眼の健康に貢献できるよう、ハード面でもサービス面でも日々開発を続けています。

最近の研究では、眼底撮影により取得したデータから、眼病以外の疾患に関する情報（認知症や動脈硬化など）が得られることがわかってきました。

トプコンは、「目は身体之窗、Healthcare Through the Eye」を使命とし、眼の検査、診断技術を向上させることで、人々の健康で快適な生活に貢献していきます。

視覚障害

世界で

22億人

(2019年)

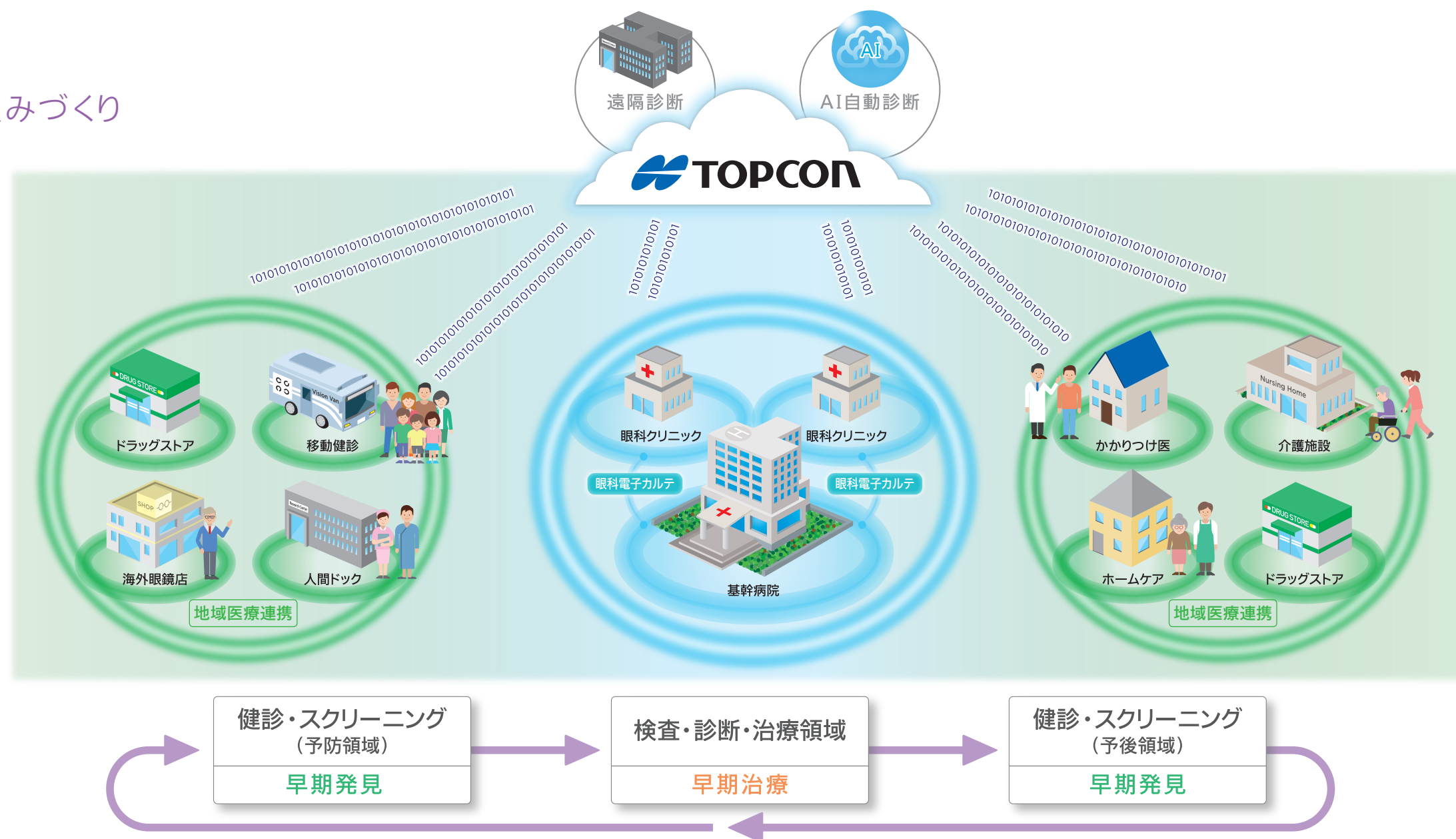
出典

WHO「ビジョンに関する世界レポート」

フルオート検査機器とICTで 眼健診(スクリーニング)の仕組みづくり

眼科専門医以外でも取り扱えるフルオート検査機器とICT技術の活用により、遠隔診断やAI自動診断を可能とする仕組みを構築。検査・診断・治療のみならず、かかりつけ医や眼鏡店・ドラッグストア等*を活用した眼健診(スクリーニング)を実現し、眼疾患の早期発見・早期治療とともに医療効率の向上に貢献します。

※日本においては医師不在の眼鏡店及びドラッグストア等は対象外



検査 Examination



視力検査機器

近視、遠視、乱視の度数、軸と角膜形状の自動測定を行ったり、視力表を見ながら視力を測定することができます。それらの機能を1台に集約した複合機もあります。



トノメーター(眼圧計)

眼球の内圧(眼球の形を保つための圧力)を測定する装置で、主に緑内障の診断に使用されます。

診断 Diagnosis



マルチファンクション トポグラフィ

角膜のカーブの強さや形状、眼軸(眼の奥行の長さ)の測定や、涙液の状態を観察します。データは、様々なコンタクトレンズや視力矯正の診断に活用されています。



眼底カメラ

眼の奥の網膜などを撮影する装置で、緑内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症など眼疾患の他、高血圧や糖尿病など生活習慣病の診断にも使用されます。



3次元眼底像 撮影装置(3D OCT)

眼底網膜の断面画像を近赤外線を用いて観察・撮影する装置で、様々な眼疾患の早期発見、診断に使用されます。

診察 Consultation



スリットランプ

眼科の聴診器といわれ、前眼部から眼底までを観察する顕微鏡です。



データマネジメントシステム

モダリティの画像を保存、編集できるデータ管理システム、他社データやAIともつながる包括的眼科プラットフォーム、クラウドで運用可能な電子カルテシステム、遠隔検眼システムなど、様々なニーズに合わせたソリューションを提供しています。

治療 Treatment



手術用顕微鏡

眼科手術を行う時に使用する顕微鏡で、明るく鮮明な視野と独自開発の照明装置で硝子体手術などの手術効率向上に貢献します。



「観る技術」でIT農業を推進し、豊かな食生活を

社会的課題 Societal Challenge

世界の人口増加に伴う 食糧不足への懸念

現在、世界の人口は78億人、2050年までには97億人に達すると予想されています(国連人口基金「世界人口白書2021」)。この人口増加に伴い、世界的な食糧不足が懸念されています。実際に十分な食糧が確保できず飢餓状態にある人は、世界の9人に1人(約8億人)と言われています。国連サミットで採択された「SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))」の中には「目標2: 飢餓をゼロに」の項目があり、いま、世界の食糧不足への課題解決に向けた取り組みに人々の関心が高まっています。

FAO(国際連合食糧農業機関)の予測では、2050年までに増加する人口を養うためには、世界の農業生産量を50%増加(2012年の水準に対し)させる必要があるとしています。しかし、地球上の農地面積は限られているため、生産量

を増やすには生産性を飛躍的に向上させなくてはなりません。また、昨今の気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水及びその他の災害への対応、農業従事者の高齢化や不足も大きな問題です。

対 策 Countermeasure

IT農業ソリューションで 農作業を効率化

世界的な食糧不足への懸念を解決するため、トプコンは「農作業の自動化」や「デジタルデータによる営農プロセスの一元管理」により農業の工場化が必要であると考えています。トプコンは長年培ってきた光学技術、GNSS技術、また各種センサーやネットワーク技術を活用し、農機の自動運転システムや作業プロセスのデジタル化で農業の生産性や効率性を飛躍的に向上させるソリューションを提供しています。

農機の自動運転システムはハンドル操作を不要とし、自動的に指定したルート of 走行を可能とするため、種や苗、農薬

の補充などの農作業に集中することができます。さらにこのシステムは取付け、取り外しが容易な後付けタイプのため、複数の農機で使い回しが可能です。また、分光技術を活用したレーザー式生育センサーとの組み合わせで、作物の生育状態を非接触で計測し、リアルタイムに最適な肥料や水の散布量を調整することで、材料費(農薬、肥料、水など)を削減すると同時に作物の生育を均質化することができます。生育のばらつきをおさえることは、品質の安定化や生産性の向上に貢献します。さらに、生育度をデジタル化し、数値として捉えることで、従来の経験と勘に頼っていた熟練の技を「見える化」し、またデータによる営農プロセスの一元管理が実現できます。

未 来 Future

農業の作業工程をデータでつなぎ 品質向上、生産性を最大化

トプコンがIT農業に参入したのは2006年。それ以来さまざまな技術開発と海外ベンチャー企業のグループ化により新たなソリューションの創出と酪農分野にまで事業領域を拡大しました。今後も、農機の自動化システムや生育センサーをはじめ、営農サイクル(計画・整備、播種、育成、収穫)のあらゆるデータをクラウドで一元管理し、それらのデータをもとに農作業の診断、予測、処方を行うことで、更なる生産性の向上による収量の最大化、作物の品質向上を目指します。豊かな恵みを受けられる食生活を。トプコンは、農業の「工場化」を推進し、持続可能な農業に貢献していきます。





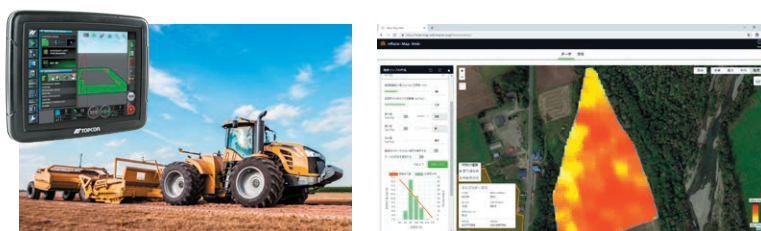
「農業の工場化」で 営農サイクルを一元管理

詳しい情報は
こちら



農機の自動運転システムやレーザー式生育センサーによる作物の生育状況の見える化により農業の自動化/IT化を実現。これまで経験と勘に依存していた“計画-播種-育成-収穫”の営農サイクルをデジタルデータで一元管理し、作業の自動化・効率化により、生産性や品質の向上に貢献します。

計画 Preparation



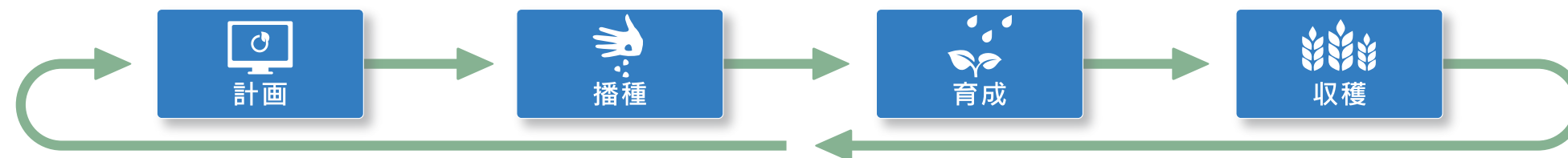
自動均平システム

高精度GNSS受信機やレーザーを使用して土を削る高さを制御することにより、圃場を自動的に平に均すことができます。圃場の均平化により生育のばらつきを抑え収量の向上が期待できます。

肥料設計ソフトウェア

衛星画像や生育センサーにより取得したデータから土壌の栄養状態を推測し、作物を播く前の最適な肥料設計をします。設計通りに肥料を散布することで収量の向上と品質の安定、肥料コストの軽減を図ります。

営農サイクルをデジタルデータで一元管理



播種(種まき)/移植 Seeding/Planting



GNSS自動操舵システム

農機にGNSS受信機とガイダンス用ディスプレイ、電動ステアリングを搭載することにより自動でハンドルをコントロール。同じ走行ルート上で何度も繰り返し作業を行う必要のある育成管理の作業効率を向上させると共に、肥料、農薬、水の使用量を低減させ、収益向上に貢献します。

育成 Growing



レーザー式生育センサー (CropSpec)

農機を走行させて、作物の生育状況をレーザー光を利用し非接触で計測。肥料の散布量をリアルタイムに調整することにより効率のよい追肥ができ、倒伏低減や品質のバラツキの軽減を図り、収量の最大化を支援します。

ブームスプレーヤー (散布機) 高さコントロールシステム

高速で走行するブームスプレーヤーの高さを一定に保ち、農薬や肥料、水などの無駄な飛散を抑え材料コストの低減を図ることができます。

収穫 Harvesting



収量計測システム (Yield track)

小麦やジャガイモ等の収穫機(ハーベスタ)に重量センサーを取り付け、GNSS衛星からの位置情報と紐付けることで収量マップを作成します。全ての農業サイクルの結果となる収量マップは、次回の営農計画の基となる貴重な情報です。

酪農給餌 Feeding



重量センサーとそれを管理するシステムを通して家畜に与える餌の配合比率や量を正確に計測し、確実に給餌(きゅうじ: 餌を与える)することができます。家畜の生育には必要な栄養素と量を正しく与え続けることが重要です。トプコンのシステムを使えば誰が作業をしても給餌を正しく管理することが可能となります。



「見る技術」で建設工事を工場化、安心して生活できる社会基盤を

社会的課題 Societal Challenge

高騰するインフラ需要に対し、 現場では技能者が不足

新興国では急速な経済発展と人口増加に伴い、鉄道や道路などの交通網をはじめ、発電所や上下水道システムなど快適な暮らしに向けた社会インフラの需要が急増しています。また、日本や欧米など先進国では、都市再開発の需要に加え、老朽化した社会インフラのメンテナンス需要が高まっています。さらに、昨今の極端な気候変動による自然災害に対応できる強靱な国土を構築、整備していく必要があります。こうした世界的なインフラ需要をまかない続けるため、2035年までに必要とされるインフラ累積投資額は69兆ドルと予想されています（マッキンゼー・グローバル・インスティテュート推計“Bridging infrastructure gaps”）。この世界的に高騰するインフラ需要の一方で、投資とのギャップや、熟練建設技能者の不足が社会的課題としてクローズアップされています。

対策 Countermeasure

建設機械の自動化と 作業プロセスの一元管理で現場の 生産性と品質を向上

これらの課題を解決するため、建設工事の生産性を飛躍的に向上させるソリューションが求められています。トプコンは、創業以来培ってきた位置計測の技術を軸に、1990年代から土木施工市場へ参入。世界最大の産業である建設工事の生産性や品質の向上に貢献してきました。1994年にアメリカのベンチャー企業をグループ化し、建設機械の自動化技術、また2000年には高精度ハイブリッドGNSS技術を獲得しました。これら3次元計測のためのセンサーや制御装置を建設機械に後付けすることで、計測した位置情報と3次元設計データに基づき、油圧を自動で制御して施工を行うことが可能となります。作業の目印となる大量の木杭や丁張りの設置が不要となり、また熟練オペレーターでなくても簡単操縦で、高精度な施工作業を行うことができるようになります。また、トプコンの自動化システムはさ

まざまな建設機械に取り付けることができるため、今後このような技術を搭載したICT建機の普及推進が期待されます。更に、ICT建機や3次元計測機、各種センサーをIoTでつなぐことで遠隔地でもパソコンやタブレットを使って作業の進捗や建機の稼働状況の把握、資材管理などが可能となり、現場監督者がリモートで現場の状況を把握し、リアルタイムに指示を出すことができるようになります。これによりトプコンは、“測量－設計－施工－検査”という土木工事のワークフローを3Dデジタルデータで一元管理し、生産性を飛躍的に向上させる土木工事の「工場化」を実現させます。

未来 Future

建設工事の「工場化」で 社会インフラの 整備・維持・管理に貢献

トプコンは、土木工事の「工場化」に加え、2018年にオランダの舗装施工向けソフトウェア会社をグループ化し、舗装メンテナンス工事の「工場化」も実現しました。車で走行しながら

ら路面の状態をリアルタイムに計測するシステムやその計測データをもとにアスファルト路面の切削や再舗装を効率よく行い、更にアスファルト工場とのデータ連携により道路舗装の修繕におけるトータルソリューションを実現します。また、建築分野においては、2018年にアメリカのBIM（Building information modeling）ソフトウェア会社をグループ化することで建築工事の「工場化」にも取り組んでいます。トプコンは建設工事のプロセスをデジタル化、自動化することで技能者不足の解消と建設作業の生産性、品質の向上を実現します。安心・安全に生活できる社会インフラを。トプコンは、生活の基盤となる社会インフラの整備・維持・管理に貢献していきます。

インフラ投資

2017年から2035年までに

69兆ドル

出典
マッキンゼー・グローバル・インスティテュート推計
“Bridging infrastructure gaps”



「建設工事の工場化」でワークフローを一元管理

3次元計測システムやセンシング/制御技術の活用により

建機を自動制御するICT自動化施工システムを開発。

オフィスと建設現場をIoTネットワークでつなぎ、

“測量-設計-施工-検査”からなる建設工事のワークフローを

3Dデジタルデータで一元管理することで建設作業の効率化を実現。

人手不足の解消と生産性の向上に貢献します。

測量/検査 Survey / Inspection



3次元計測機

角度と距離を計測し、座標を測定する測量機器。測量から施工、検査など様々な現場シーンで活用されています。マニュアルタイプからモーターを搭載した自動視準・自動追尾タイプ、デジタルカメラ機能搭載タイプなど用途に合わせた充実した製品ラインアップを揃えています。



GNSS受信機

全ての測位衛星（GPS、GLONASS、Galileo、BeiDou、QZSS[準天頂衛星]）から最適な信号を受信することにより高速・高精度な位置情報を取得できます。測量からICT施工、IT農業など様々な用途に応じたラインアップを揃えています。



3Dレーザースキャナー

スキャナーから照射されたレーザーにより高精度な3次元点群データを高速に取得する3D計測機です。建設現場における3次元計測（現況計測、土量管理、出来形管理）に加え、構造物調査や災害調査、遺跡調査から歴史的建造物のデータ管理など幅広く活用されています。



モバイルマッピングシステム

GNSS受信機、IMU、360度カメラ及び3Dレーザースキャナー等を融合した計測システムを車両に搭載し、走行路線周辺の3次元点群データを収集するシステムです。現況調査や図化作成、景観シミュレーション、インフラの維持・管理などに利用されています。



UAVによる空中写真測量システム

UAV(Unmanned Aerial Vehicle)による空撮画像から広範囲の3次元地形モデルを作成できるシステムです。土木施工時の出来形管理などの現況調査、構造物の維持・管理、災害調査など多岐にわたる分野に活用されています。

詳しい情報は
こちら



設計/施工計画 Design



3D点群処理システム

UAV・3Dレーザースキャナー・モバイルマッピングシステムで「空から」「地上から」「走行しながら」取得した計測データを使い、高精度な3D点群データを生成・処理・合成することができます。シームレスな現場の3D化により大幅な工期短縮を実現します。

ICT自動化施工 Construction



マシンコントロール・マシンガイダンスシステム

高精度なポジショニングセンサー（GNSS受信機、トータルステーション、レーザーなど）や油圧制御システム、またIMUなどの各種センサーを取り付け、ブルドーザーや油圧ショベルなどの建設機械を3次元設計データに基づき自動制御するシステムです。土木施工や舗装作業の効率化、省力化に大きく貢献しています。



リアルタイム施工マネジメントシステム

建設現場の各種センサーとオフィスをネットワークで繋ぎ、現場状況が把握できるシステムです。現場の作業スケジュール管理や建設機械の稼働状況、進捗情報などプロジェクトの全てをリアルタイムに一元管理できるソリューションです。

光学技術をベースに新たな価値を提供

創業以来培ってきた光学技術をベースにして、測量と眼科医療機器の分野において画期的な製品をグローバルに提供してきました。90年代より最先端技術を持つ企業のM&Aやアライアンスを通じ「医・食・住」の領域の技術融合を推進し、建設工事や農業の工場化、眼健診（スクリーニング）など独創的なソリューションを提供しています。

トプコンは、「医・食・住」の社会的課題を解決する使命を果たすため、破壊的技術の創出に挑戦し続けます。



GNSS(全地球測位システム)技術

地球をとりまく測位衛星からの信号を確実に捕捉する当社独自のVanguard Technology™は、GPS、GLONASSのみならず、QZSS(準天頂衛星)、Galileo等、全ての測位衛星に対応します。高速・高精度な測位を実現するために、452チャンネルの受信能力を装備し、高感度かつ安定した受信を可能にしました。数mmの測位精度により、測量のみならず土木施工、IT農業まで幅広く活躍しています。



光センシング・応用光学

測量機に用いられている測距技術は、レーザー光を測定対象まで往復させた時間を精密に測定することにより、mmオーダーの距離精度を実現、高精度な3D位置計測を支えています。また、分光技術を応用し農作物の育成状況を非接触で計測する技術は、リアルタイムに肥料の散布量を制御し、収穫物の生育や品質を均一化するIT農業の推進力となっています。



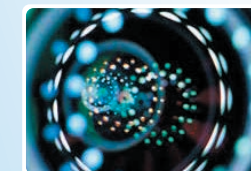
新たな価値の創造 “Sensor to AI”



詳しい情報は
こちら



これまで培ってきたオプトメカトロニクス技術に加え、M&Aにより獲得した技術を有機的に結合させることで独自のセンサーを構築してきました。今後、センシングデータをより価値のあるものに変換するために、最新のAI技術を適用し差別化されたセンサー情報を生み出すことを目指しております。独自のセンサーの高度化と最先端技術との融合こそが破壊的技術の創出へつながるSensor to AIです。



光学設計

Sensor to AIを実現するためのセンシング技術の肝となるレンズ設計・薄膜技術を保有し、光学計測システム全体を高度に最適化する光学設計を行います。特殊薄膜塗布技術、量産技術、特殊加工技術などを駆使しながら、リアルワールドに配置される光学センサーを創り出します。



制御技術



高精度な3D位置計測技術を基軸とし、精密な油圧コントロール技術を組み合わせて、3次元設計データに基づき建機のブレードやバケットの自動制御を可能にしました。また、IT農業では位置情報と電動ステアリングとの組み合わせで、農機の自動走行を実現し、農作業の効率化に大きく貢献しています。



3次元眼底精密検査



光学センシング、眼光学、画像処理技術の集大成として、3D OCT(光干渉断層計)を世界で初めて商品化。従来の眼底カメラ機能に加え、眼底の微細な3次元構造を瞬時に映し出す技術を開発し、眼科検査・診断の新時代を拓きました。SweptSource光源を搭載したモデルでは、網膜だけでなく硝子体や脈絡膜までの網膜深部の断層像描出が可能で、疾患の進行の度合いや疾患機序の解明の研究用途にも幅広く活用されています。

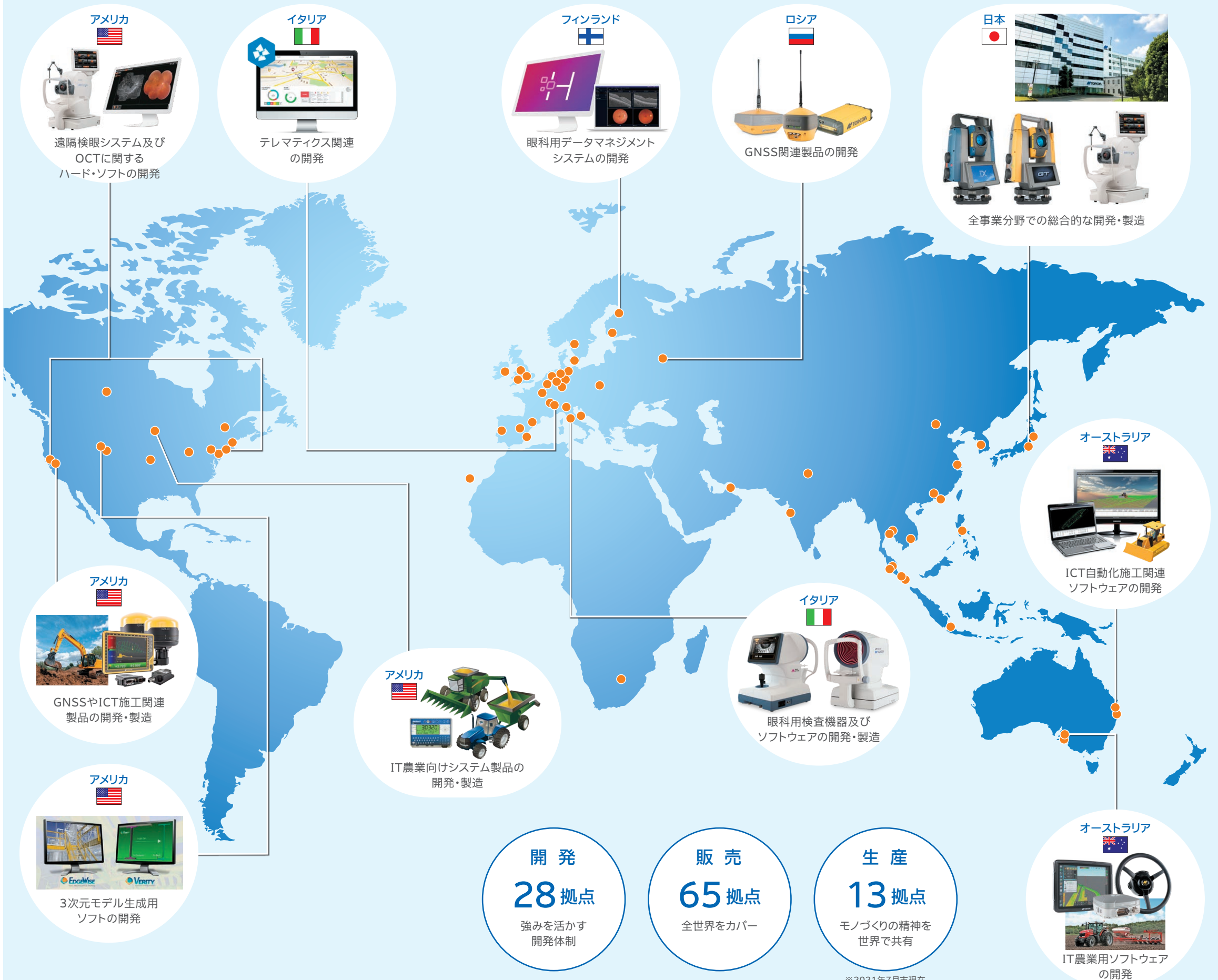
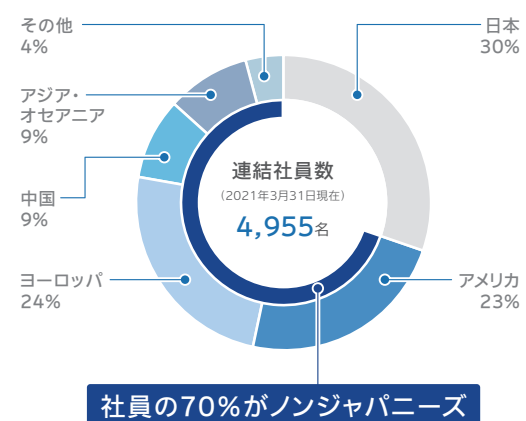
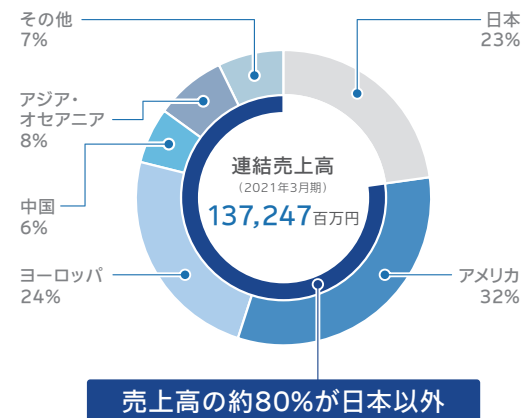


世界中の仲間とともに、 明日のグローバルニーズ に応えます

トプングループは、お客様のニーズを先取りし、新しい価値を提供することで事業を拡大してきました。

現在では世界31の国と地域で、販売65拠点、開発28拠点、生産13拠点を展開し、売上高比率の約80%が海外市場、社員の70%がノンジャパニーズというグローバル企業へと成長しました。

これからも「医・食・住」の社会的課題の解決に向け、グローバルな製販技一体制でチャレンジを続けます。





History of TOPCON トプコングループの事業変遷

国産光学機器のパイオニアから、「医・食・住」のソリューションプロバイダーへ チャレンジ精神を持ち続ける1932年創業のベンチャー企業

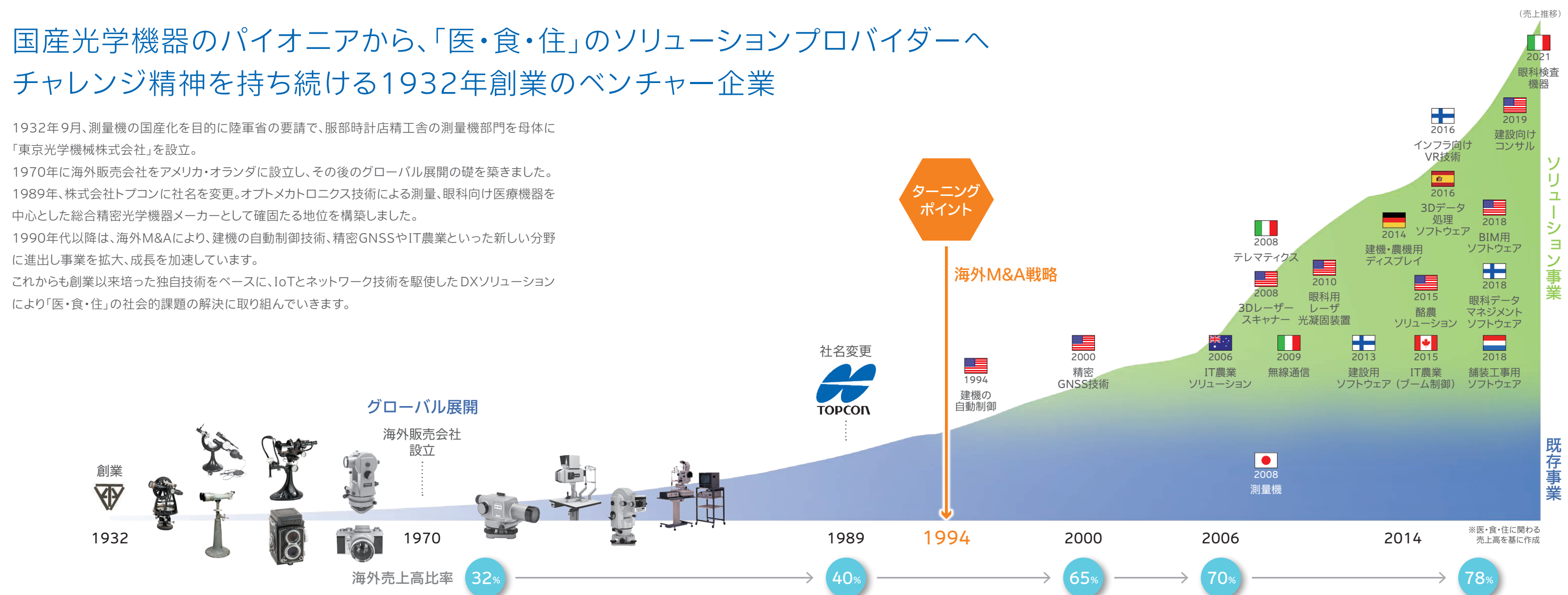
1932年9月、測量機の国産化を目的に陸軍省の要請で、服部時計店精工舎の測量機部門を母体に「東京光学機械株式会社」を設立。

1970年に海外販売会社をアメリカ・オランダに設立し、その後のグローバル展開の礎を築きました。

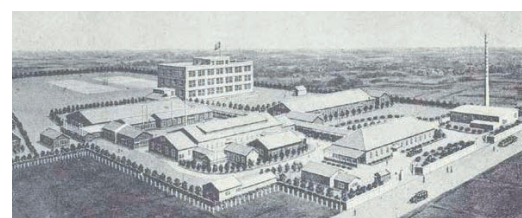
1989年、株式会社トプコンに社名を変更。オプトメカトロニクス技術による測量、眼科向け医療機器を中心とした総合精密光学機器メーカーとして確固たる地位を構築しました。

1990年代以降は、海外M&Aにより、建機の自動制御技術、精密GNSSやIT農業といった新しい分野に進出し事業を拡大、成長を加速しています。

これからも創業以来培った独自技術をベースに、IoTとネットワーク技術を駆使したDXソリューションにより「医・食・住」の社会的課題の解決に取り組んでいきます。



創業 1932年



国産光学機器のパイオニア

1932年、測量機の国産化を目的に陸軍省の要請で服部時計店精工舎(現、セイコーホールディングス)の測量機部門を母体に「東京光学機械株式会社」を設立。測量機、双眼鏡、カメラや照準眼鏡を生産。

戦後は双眼鏡の生産に主力をおき、主に米国向けに輸出。さらに測量機を生産し戦後の国土復興と開発に貢献。

1947年、医療機器事業を開始。

積極的なグローバル展開 1970年～



オプトメカトロニクスでヒット商品連発

1970年、海外販売会社をアメリカ・オランダに設立。1986年には海外製造子会社を香港に設立、その後のグローバル展開の礎を築いた。

また、1970～80年代には、トプコン独自の光学技術に機械と電気技術を融合したオプトメカトロニクスを進化させ、画期的な測量機や視力測定機を開発し、総合精密光学機器メーカーとして確固たる地位を築いた。

1989年「株式会社トプコン」に社名変更。

ソリューションプロバイダーへ転身 1994年～



海外M&A戦略で事業領域を拡大

1990年半ばから積極的な海外M&Aにより、建機の自動制御技術(1994年・アメリカ)、精密GNSS技術(2000年・アメリカ)、IT農業ソリューション(2006年・オーストラリア)といった新しい技術を取り込み、建設・農業分野に参入。

眼科医療分野では2006年に世界初のOCTと眼底カメラを融合した3次元眼底像撮影装置を開発。

M&Aと新規事業開拓により、ソリューション提案型ビジネスへ転換。

グローバル投資を加速

2014年以降さらにグローバル投資を加速、これまで国内外35社以上のM&Aやアライアンスを実施。2014～2015年には複数のM&AによりIT農業の事業拡大を図った。また、アイケア技術専門のソフトウェア開発子会社(アメリカ)の設立やIoTシステム開発会社(フィンランド)の買収により、眼疾患スクリーニングビジネスを創出。

創業以来培った技術と最先端のIoTやAI技術を融合し、DXソリューションにより「医・食・住」の社会的課題の解決に取り組んでいる。

商号	株式会社トプコン (TOPCON CORPORATION)
本社所在地	東京都板橋区蓮沼町75番1号
設立	1932年(昭和7年)9月1日
代表者	代表取締役社長 平野 聡
資本金	16,697百万円
連結売上高	137,247百万円
連結社員数	4,955名
グループ会社	連結子会社: 国内6社、海外61社 持分法適用会社: 国内2社、海外8社 合計77社

(2021年3月31日現在)

ウェブサイトのご案内

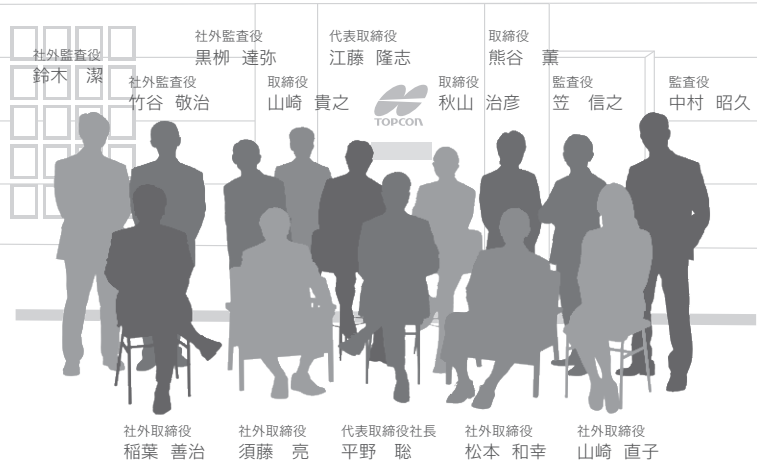


トプコンに関する
さらに詳しい情報は
こちらの当社ホームページを
ご覧ください。

QRコードからも
ご覧いただけます。



<https://www.topcon.co.jp>



Board Members



代表取締役社長 平野 聡	取締役 秋山 治彦 山崎 貴之 熊谷 薫	社外取締役 松本 和幸 須藤 亮	山崎 直子 稲葉 善治	監査役 中村 昭久 笠 信之	社外監査役 黒柳 達弥 竹谷 敬治 鈴木 潔
-----------------	-------------------------------	------------------------	----------------	----------------------	---------------------------------

詳しい情報は
こちら